

次の文章を読み、後の問いに答えなさい（設問の都合上、一部省略した箇所がある）。

日本に西洋の人文社会科学や自然科学が体系的に導入されるのは明治維新、すなわち一九世紀後半のことです。文系、理系という進路選択が問題になるのは当然ながら、そのあとのことです。では、それより前には学問について、人々はどうのような考え方をしていたのでしょうか。

当然ながら、日本独自の知の営みもあったのですが、その前に、長きにわたり東アジアのエリート層が共有していた漢文（古代中国の文語文）による学問体系の存在に触れなければなりません。

近代より前の東アジアにおける漢文は、中世のヨーロッパ諸国にとっての古代ギリシア語、ラテン語と似ています。そして東アジアでは、西洋とは違った形で学問の規範を育てていました。たとえば、^A古代中国の知的文化において重視されたのは、生きるための思想あるいは原理である「道」を追求することです。そのための教養とみなされたのが、儒教や道教のような人間にとっての規範を説く分野およびそのために必要な歴史知識であり、これらは「学」と呼ばれました。それに対して天文学や数学、医学、農学、戦術・兵法などの「術」は特定の専門家だけが学ぶものとされ、「学」よりも低い扱いでした。

特に儒教は、統治する者、あるいは統治者に仕える官僚のような人々が学び、信ずる教えとして最も重視されました（ゆえに官吏登用試験である科擧において必須となったのです）。それにより、家庭の私生活から政務など公的生活にいたるまで、人としてあるべき生き方と社会秩序を保つために必要なことがわかるとみなされていたからです。

「術」は低い扱いを受けたとは言え、やはり官僚機構に必須の専門的知識でした。たとえば、中国には高度な天文学が存在していたことが知られていますが、これは歴代王朝が暦を精密化するため、行政機構の一部が継続的な観測を続けていたことに由来します（世界で最も古い太陽黒点の観測記録があるのは中国です）。また、世界で最も古い算術書の一つである『九章算術』（紀元前一〇世紀～二世紀）からは、古代よりのチヨウゼイ、測量術など、行政に関係した数学が官僚たちにより担われていたことが窺^{うかが}えます。

日本の場合は中国の科擧のような官僚登用試験も官僚機構も発展はしませんでした。やはり古来より中国の学問は意識して取り入れ、部分的には、暦を作る役職など類似の機構を発展させてもいます。たとえば江戸時代ですと、天文方という役職が幕府に存在していました。なお、民衆は基本的に、知的であることを期待されていませんでした。

一六世紀にイエズス会の宣教師たちが東アジアにのトウタツし、当時の西洋の学問や技術を持ち

込むと、鉄砲などの武器や望遠鏡などの観測機器、測量技術が人々の目を引きました。しかしこの時点では、東アジアの学問に大きな影響を残すことはありませんでした。当時の日本人や中国人は、宣教師たちの天文学知識や測量技術、兵器など「術」に関わる部分を器用に取り入れるに留まったのです。【a】

日本人にとっては、中国から輸入された諸学と、国内で独自に発展させた学問とで大半の用は足りていたのです。たとえば一七世紀末には関孝和が中国渡りの天元術てんげんじゆつという代数方程式の計算法に該当するものを改良し、日本独自の数学、和算を発展させています。和算は西洋数学の積分に相当する方法を見つけるなど高い水準に達しただけでなく、暦の改良や測量といった実用にも貢献していきました。【b】

西洋の科学・技術が部分的にせよ東アジア世界に取り入れられる一方で、西洋人宣教師らの布教は厳しく弾圧されました。【c】

なお、このように書くと「道」を説く「学」の諸領域と専門知である「術」の諸領域がまるで文系と理系に対応するかのよう誤解されるかもしれませんが、全く違います。「自然」と「社会」とがはつきりとは区別されない当時の東アジアの精神世界では、「自然のことを考える」と「社会や人間について考える」とことは区別されず、混じり合っていました。自然科学と人文社会科学という区別が生じようもなかったのです。【d】

たとえば儒学は自然環境の問題（木を切りすぎて森林資源を損なってはいけないなど）も為政者の考慮すべきこととして論じています。また、日本でも中国でも、洪水やひでり、地震などは単なる自然災害ではなく、悪い為政者に対する天の警告と捉えられ、政治的な解釈がされました（いわゆる「天譴」てんけん思想）。

現代人にとって、前者はともかく、後者は迷信にしか感じられないでしょう。しかし、当時の状況を考えれば一定の合理性もありました。たとえば為政者が無理な河川工事を行って、それが本当に近隣の村落に水害を引き起こしたとします。^B先に述べた考え方だと、政府や被害に遭った住民が細かい科学的なケンシヨウをせずとも、自動的に為政者の責任を問えることになります。民主的でもなく、人々の識字率や科学リテラシーが現代のように高くはなかった時代には、「天の警告」のような考え方が、結果としては為政者に慎重な振る舞いをさせる仕組みとして機能していたといえるでしょう。

なお、最後に簡単に、日本と中国における学問と社会の関わり方の違いについて触れておきます。明朝や清朝の中国は基本的に、学問に通じた文官（官僚、科挙を勝ち抜いた人々）が武官（軍）を従えるというヒエラルキーがはつきりしていました。すなわち、熾烈な競争を勝ち抜いて科挙に受ければ原則としてはどのような出自の者もエリートになれるという意味では比較的「平等」なのですが、

武官やその下に続く一般庶民が学問と遠くなる傾向もあったのです。

対して江戸時代の日本は、武官が各国の領主を束ねて統治する分権国家であり、科挙はありません。そのため武家に生まれなかった者は学問で立身出世することが叶い^{かな}ませんでした。その意味では不平等なのですが、しかしその分、学問を学んだ町人層が独自に塾を開いたり、書物を著したりといった活動が活発であったようです。すなわち、知的才能が一つの決まった進路や階層に吸い上げられず、地域に留まり、結果としては知のあり方がⅠで、流動性が保たれていたと言えるでしょう（高度に理論化された専門知を一部の人が担っているのではなく、Ⅱな知の担い手がたくさんいた世界といってもいいのかもしれませんが）。

（^{おき}隠岐さや^か香『文系と理系はなぜ分かれたのか』より）

問1 傍線部(ア)～(ウ)のカタカナと同じ漢字を使うものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 41 ～ 43。

(ア) チョウゼイ ① 室内の気温をチョウ節する。

② 物事を誇チョウして語る。

41 ③ 特チョウのある話し方。

④ 彼は几チョウ面な性格だ。

① 前人未トウの偉業を成す。

(イ) トウタツ ② 雨水が地下に浸トウする。

42 ③ 圧トウ的な才能の持ち主。

④ タクシーがトウ着する。

① 対ショウ的な性格の兄弟。

(ウ) ケンショウ ② 強い印ショウを残す人物。

43 ③ ショウ害物を取り除く。

④ 免許ショウを提示する。

問2 文中の空欄I・IIに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は 44。

① I Ⅱ分権的 II Ⅱアマチュア的

② I Ⅱ集権的 II Ⅱプロフェッショナル的

③ I Ⅱ分権的 II Ⅱプロフェッショナル的

④ I Ⅱ集権的 II Ⅱアマチュア的

問3 傍線部A「古代中国の知的文化」の性質として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 解答番号は 45。

- ① 生きるための思想あるいは原理である「道」の追求を重視する性質。
- ② 儒教や道教、歴史知識などを「道」を追求するための教養とみなす性質。
- ③ 実用性のない天文学や数学などを官僚機構に必須の学問と考える性質。
- ④ 私生活から公的生活まであらゆる生き方や社会秩序の指針を儒教におく性質。

問4 傍線部B「先に述べた考え方」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 解答番号は 46。

- ① 自然災害による被害は為政者が補償すべきこととする考え方。
- ② 洪水や地震などは悪い為政者に対する天の警告だとする考え方。
- ③ 迷信にも状況によっては一定の合理性があるとする考え方。
- ④ 無理な河川工事を行えば必ず水害が引き起こされるとする考え方。

問5 本文からは次の一文が抜け落ちている。入れるべき場所として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 解答番号は 47。

*キリスト教の信仰のように、生き方の根幹（先の例で言えば「道」）に影響を与えうる思想がある土地で入れ替わることの難しさが窺えます。

- ① a
- ② b
- ③ c
- ④ d

問6

本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。解

答番号は

48

。

- ① 日本は中国の天文方を江戸幕府の専門職として採用するなど、中国と同様の官僚機構や官僚登用制度を積極的に取り入れた。
- ② 日本には中国から輸入された諸学と国内で独自に発展させた学問があり、西洋の学問や技術は導入されたものの大きな影響を及ぼすには至らなかった。
- ③ 中国では「自然のことを考える」ことと「社会や人間について考える」ことは全く同じであり、すべてを儒教で説明できるとする合理性に支配されていた。
- ④ 江戸時代の知のあり方は流動的で、多くの知の担い手たちが地域に留まらずにいることで、知的才能が決まった進路や階層に吸い上げられるのを防いでいた。